対話を通して考えた

立場の違い

~The difference of position~

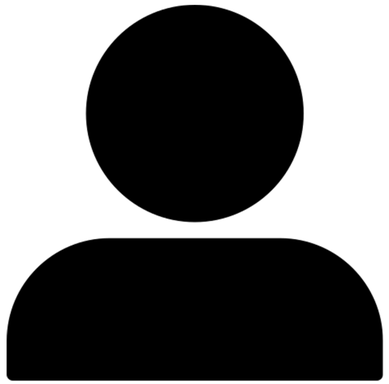
飯舘９月Ａ班

井形庚紀　岩崎颯士　大平暖　山田愛莉

はじめに

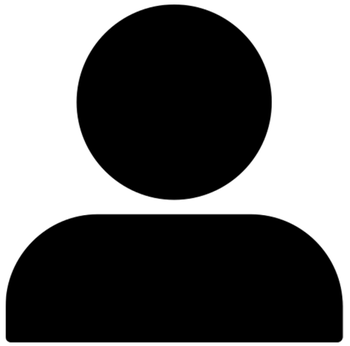
テーマのきっかけ

～対話の時間～



これまでの経験によって考えが異なる場面が多い

異なる考えを知ることで自分の考えが広がる



分かり合うとは

当事者意識を持つとは

どういうことなのだろう？

目次

１.測定

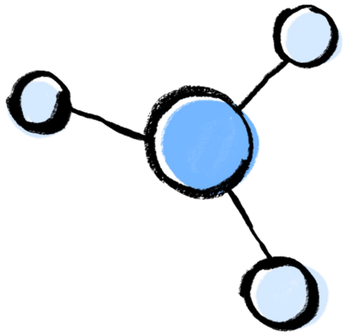
2.廃炉資料館でのビデオ

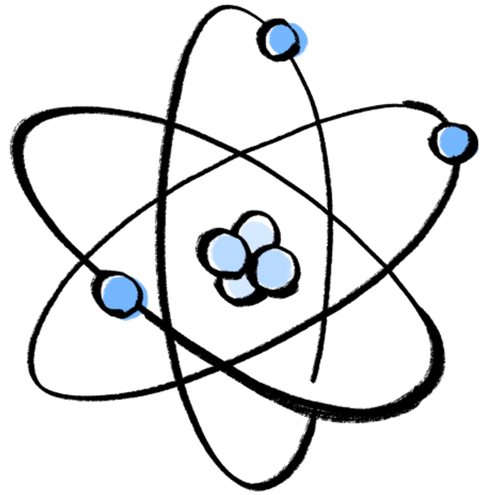
３.除染土の最終処分

４.おわりに

第一章　測定

岩崎　颯士





グループ構成

文系　（教育、哲学）

理系　（医療、工学）

→　異なる分野・経験を持つメンバー

文系→この役割

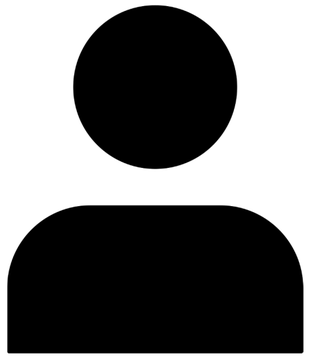
理系→この役割

ではなく！

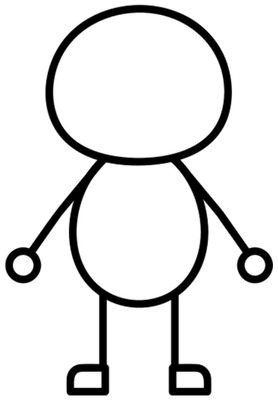
それぞれが得意なことを
活かしながら測定実習を行った

誤差について

なるべく誤差を少なくして考察したい



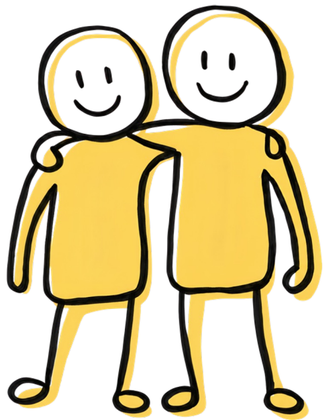
日々の会話で

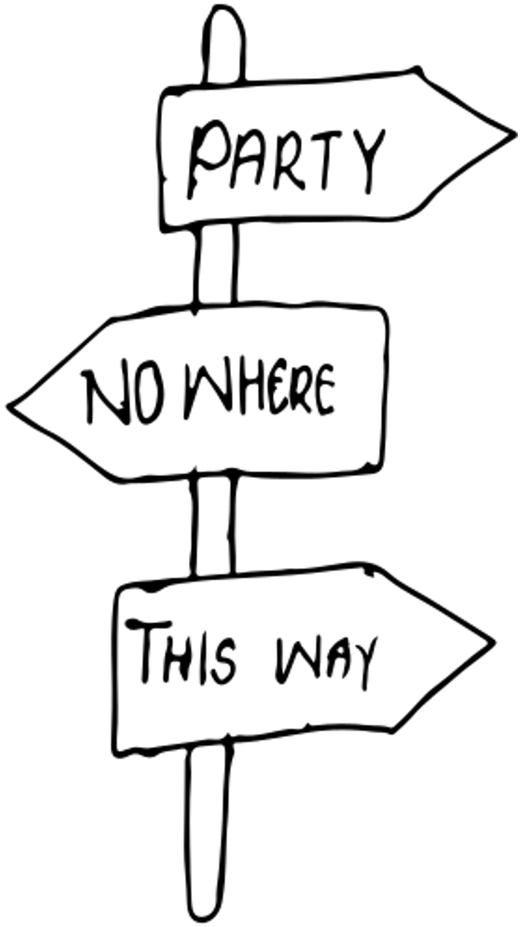


どうしてそう考えたの？

どう感じた？

異なる分野だからこそ
新たな視点や考えを
得ることができる。





第二章

廃炉資料館でのビデオについて
対話で話したこと

井形庚紀

TEPCO廃炉資料館にて…

私たちが思い込んでいた安全とは,
おごりと過信にすぎませんでした.

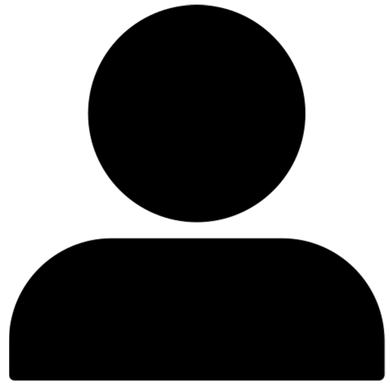
結果として，県民の皆様並びに
日本全国の方にご迷惑をおかけしたことを
心よりお詫び申し上げます

県外出身者の意見

なぜ東電の社員が頭を下げるのか？
それだけのことをしたとはいえ，
映像の内容や言葉遣いに
何とも言えない違和感を感じる…
企業としてのパフォーマンスに見えてしまった

福島出身者の意見

ぜんぜん違和感は抱かなかった.
ちゃんと反省して謝罪しているなって思った.
謝罪してもどうにもならないことだし



なんでこんなにも捉え方が違うのだろうか？

わたしたちは過ごしてきた環境や立場が違う

原子力発電所の
恩恵を受けてきた

計画停電が行われただけ

放射能被害を受けなかった

マスクやガラスバッジを
つけて幼少期を過ごした

住む場所を追われる人もいた

福島出身というだけで
心無いことを言われた

気づき

さまざまな形で福島に関わっているなかで
当事者意識を持っているつもりだったけれど
実際には県外出身者にとっての原発事故と
福島の人にとっての原発事故は違ったのかもしれない
結局，無関心だったのかもしれない

気づき

もし立場が逆だったら．．．？

無関心でいる人が悪いとか
そんな簡単な話ではないと思った

気づき

立場や経験が異なる中で

本当の意味で

「分かり合うこと」

「当事者意識を持つこと」

ってどういうことなんだろう

第三章

除染土の最終処分に関して

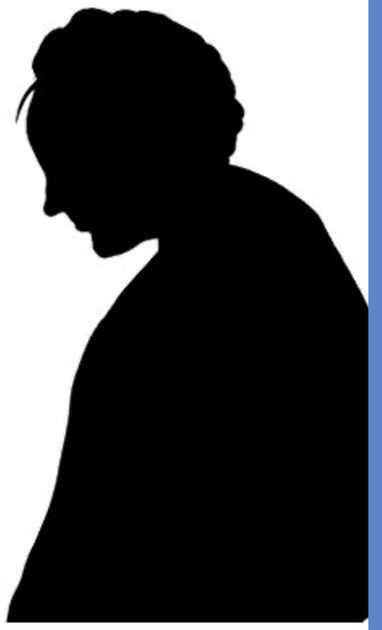
大平暖

中間貯蔵施設にある除染土は
2045年3月までに県外で最終処分
されることが法律で制定

廃炉資料館でのビデオと同じく、
生まれ育った地域で捉え方が異なっていた

福島出身者の意見

県外でも責任を共有するべき
拒絶されるのではないかという諦め



県外出身者の意見

受け入れたいものの、
具体的な方法が思いつかない

県内出身者

諦め

県外出身者

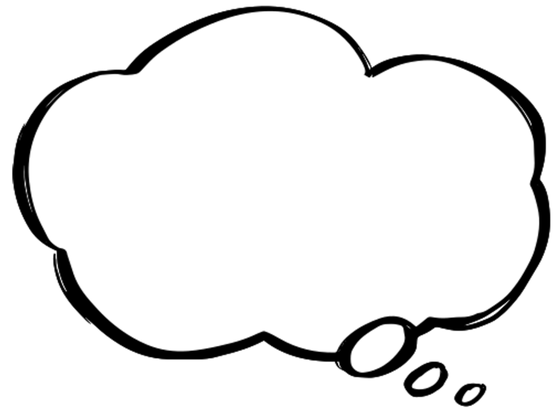
意見の違いを理解するために、互いに尊重しながら
「自分たちの社会の課題」として捉え、
対話を重ねていく必要性

第四章

おわりに

山田愛莉

立場が違うからこそ
考えが広がる



一方で、立場が違う中で
分かりあうとは、
当事者意識を持つとは、
どういうことなのか

まずは、

相手の話に耳を傾ける

それぞれの立場を尊重し、
自分自身にも関係があると
考える

ご清聴ありがとうございました